

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 11月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1090300151
法人名	医療法人 岩下会
事業所名	岩下病院 グループホーム あじさい
所在地	群馬県桐生市本町四丁目320番地 (電話) 0277-20-6722
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年9月14日

【情報提供票より】(21年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 10 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8人
利用定員数計	9 人
常勤	7 人, 非常勤1人, 常勤換算 7.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	4 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩下病院 ・ 柏瀬歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地にある病院の1階に併設されており、近隣から入居した利用者が多く、日常的に兄弟や友人の訪問があったり、近隣の店への買物等、地域との関係性が継続している。また、利用者が体調不良の時等は母体病院の支援を受けている。管理者・職員は連携を密にし、「ゆっくり・ゆったり・和をもって」をモットーに、利用者のペースを大切に、前向きな姿勢でケアの実践に取り組んでいる。利用者一人ひとりの生活暦や思い・意向の把握に努め、趣味や役割等で自分の力を発揮してもらえる場面・環境づくりをしており、温かく見守りながら支援している。玄関周辺にプランターを多数設置し、季節の花や野菜を栽培している。利用者と職員が明るくゆったりと過ごしているホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の外部評価が初回であり、該当なし
	管理者・職員は評価の意義を理解し、自己評価については職員全員で取り組み、話し合い確認の上、まとめたものを管理者が記載を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は(4月末開催)を除き、2ヶ月毎に開催されている。利用者の様子やサービスの状況等について報告、議題提案を行い、出席者からの意見や要望を受け、意見交換を行っている。そこでの意見を定例会議等で検討し、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の来訪時には、利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えており、話しやすい雰囲気づくりに留意しながら、苦情や意見等聴くように努めている。運営推進会議に参加した家族等からも意見等を聴くようにしており、出された意見等は申し送りノートに記載し、職員全員で検討し、運営に反映させるように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩やゴミ捨て時に、近隣の人達と挨拶を交わしたり、話をしている。近隣からの入居者が多く、利用者の兄弟や友人が日常的に訪れている。自治会の人から連絡を受け、中学校跡地の花見に参加したり、桐生祭りの見学に出かけている。日頃から地元の店に買物に出かけており、地域の人々と交流を図っている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり・ゆったり・和をもって」という開設時からの理念を掲げており、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての理念をつくりあげていない。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、これまでの理念を見直し、地域との関連性を取り入れた事業所独自の理念をつくりあげてほしい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、ミーティングや定例会議等で理念を意識しながら話し合い、ケアの方向性を確認している。日々の生活の中で、職員側のペースで利用者に対応しそうな時は、職員同士で注意し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。介護日誌の表紙に理念を大きく貼付している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩やゴミ捨て時に、近隣の人達と挨拶を交わしたり、話をしている。近隣からの入居者が多く、利用者の兄弟や友人が日常的に訪れている。自治会の人から連絡を受け、中学校跡地の花見に参加したり、桐生祭りの見学に出かけている。日頃から地元の店に買物に出かけており、地域の人々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解しており、自己評価については職員全員で取り組み、話し合い確認の上、まとめたものを管理者が記載を行っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2月から開催され、(4月末開催)を除き2ヶ月毎に開催されている。利用者の様子やサービスの状況等について報告、議題提案等を行い、出席者からの意見や要望を受け、意見交換を行っている。そこでの意見等を定例会議等で検討し、サービスの質の向上に活かしている。	○	運営推進会議は、外部の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。2ヶ月に1回は定期的開催し、そこでの意見等をサービスの質の向上に活かしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口に出向き、意見交換をしている。解らないことは電話で市担当者に相談し、助言や指導を受けており、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日、あるいは定期的に来訪する家族等が多いので、その時に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。遠方の家族等へは、電話で報告している。家族等と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族等に出席してもらい意見を聞いている。家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意している。出された意見等は申し送りノートに記載し、職員全員で検討し、運営に反映させるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合には、利用者・家族等に紹介し、1週間位、管理者や先輩職員が基本的な対応の仕方等を指導しながら共に支援にあたり、引継ぎがスムーズにできるよう配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や地域密着型サービス連絡協議会等からの研修案内が来ると、希望や指示により交代で受講している。実践者研修、インフルエンザ感染拡大への対応についての研修等に参加しており、会議等の中で報告を行っている。資料は回覧し、職員全員で共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、特別講演会や東毛地区の研修会等に参加し、地域の事業所と意見交換や情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族等に見学してもらい、安心して本格的な利用に移っていけるよう支援している。事前に本人・家族等から得た情報を基に、入居後も本人の思いの聴き取りに努め、家族等の協力を得ながら、徐々に環境に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の生活場面で、軍歌や昔の歌、行事のこと、折紙で作るくす玉・小箱づくり等、職員が利用者から教えてもらうことも多く、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中から、その人の思いや意向等を汲み取るよう努めており、家族等からも情報を得ようとしている。その情報を職員間で共有しながら、日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族等には日頃のかかわりの中で、思いや意向を聞き、介護計画に反映させるようにしている。毎月、職員会議等で話し合い、職員全員の意見や気づきを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。職員間で話し合い、本人、家族等に確認しながら、その都度現状に即した新たな計画を作成している。モニタリングは月に1度行われている利用者、行われていない利用者がある。	○	新たな要望や状態に変化が見られない場合でも、本人・家族等の意向や状況を確認しながら、月に1度は利用者全員のモニタリングを行い、介護計画の遂行状況、効果等を評価し、少なくとも3ヶ月に1度は見直しを実施して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の希望や状況に応じて、受診・通院介助や買物支援等柔軟に対応している。利用者が体調不良の時等、施設母体の病院の協力支援を受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等が希望するかかりつけ医で、適切な医療が受けられるよう支援している。基本的には家族等による受診・通院を行っており、体調等の変化や相談事に関しては、家族等が医療機関と連絡をとっている。利用者の希望に応じて、月2回訪問歯科医または歯科衛生士が口腔ケアの指導を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「緊急時の対応について」や急変時・終末期の医療・看護・介護のあり方についての「看取り同意書」を作成している。家族等に説明し、同意を得ており、方針の統一を図っている。本人・家族、かかりつけ医等と状況に応じた話し合いをくり返し、その時々家族等の意向を確認しながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を大切に、その人に合った言葉かけや対応に配慮している。特に幼児語では話さないように注意している。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、散歩、家事や趣味等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら希望に沿って支援している。早起きや寝坊、ゆっくり時間をかけた食事等、一人ひとりのペースを大切にしながら、その人らしく暮らせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ・米とぎ・盛り付け・配膳・食器拭き等、利用者の力量に応じて職員と一緒にやっている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるように支援している。利用者の嫌いな物や体質的に合わない物は他の物に変更している。プランター菜園で収穫した野菜を調理し、季節の味を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日を除き、毎日夕方頃に、本人の体調や希望に応じて入浴支援を行っている。日曜日でも希望があれば対応している。ゆず湯等で季節を感じてもらおう工夫や、ゆっくり湯船につかり入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	力量に応じて、玄関や居室の掃除・洗濯物干し・調理手伝い・繕い物等の役割を持ち、日常的に継続できるよう支援している。合唱・テレビ鑑賞・ぬり絵・折り紙のくす玉や小箱づくり・カラオケ・プランター菜園等で楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	病院の駐車場で散歩をしたり、近隣の店に買物に出かけている。玄関入口周辺にプランターを多数設置し、花や野菜づくりをしており、水遣りや収穫等を楽しみにしている。初詣、市内のドライブ、季節の花見、紅葉狩り等にも出かけており、日常的に外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関入口は病院の緊急入り口と兼用になっている為、家族等に了承を得て、日中玄関は施錠されている。居室は本人が留守になる時に施錠している。	○	一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、職員の連携で見守りの方法を徹底し、安全面に配慮しながら、日中は玄関に鍵をかけることを常態化せず、鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て、避難誘導訓練・消火訓練(昼間想定)を利用者と共に実施している。緊急マニュアルや連絡網を作成している。日頃より地域の人々の協力を得られるような働きかけはしていない。	○	年2回、防災訓練(昼間想定)は行われているが、リスク管理の観点から防災訓練の際には、夜間想定での実地訓練もしてほしい。また、災害時に地域住民の協力が得られるよう、具体的な協力体制づくりに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士(運営推進委員)に指導を受け、職員が献立を作成している。特に、脱水予防と低栄養には注意している。食事や水分の摂取状況を記録し、職員は情報を共有しながら支援している。毎月、体重測定を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入口周辺に季節の花や野菜を植えたプランターを設置している。玄関には利用者の手作りの作品を飾っている。ホールには、テレビやソファ、観葉植物を設置し、季節の花や利用者の作品(季節の貼り絵、ぬり絵等)が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・ラジオ・仏壇・衣装かけ・衣装ケース・テーブル・籐の椅子・化粧品・手作りのくす玉や小箱等、馴染みのあるものや好みものが持ち込まれ、本人が落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		